

H13_ - 利用実態観察調査及び利用者総合分析調査

調査項目	利用実態観察調査及び利用者総合分析調査
調査年次	平成13年度(4次調査) 章番号〔 - 〕
目的	全都市において利用実態観察調査及び利用者意向調査を行い、周辺の地区特性と公園利用との関係を探る。
概要	14都市を対象に夏季と秋季に利用実態調査及び意向調査を行った調査結果から、公園種別毎に利用内容別利用者数や滞在時間の集計を行った。
結果	<p>夏季調査における利用実態のまとめ</p> <p>近隣公園では、平日は6時台に「健康運動」「犬の散歩」、休日は6時台に「健康運動」、11時台に「球技・競技等」「親子での遊び」等、17時台に「球技・競技等」「親声の遊び」「犬の散歩」「散歩」「友達との遊び」等の3回のピークがある。街区公園では通過利用を除くと平日休日ともに夕方の利用者数が多いが、1日を通じて大きな変動はない。</p> <p>秋季調査における利用実態のまとめ</p> <p>近隣公園の平日は6時台に「健康運動」「犬の散歩」等、10～11時台には「親子での遊び」「保育園等団体での遊び」等、16時台「親子での遊び」「友達との遊び」「球技・競技等」等の3つのピークがある。休日は10～16時台までピークが続く。街区公園では、平日は8時台「徒歩通過」、11時台「保育園等団体での遊び」「親子での遊び」「休憩・会話」のピークがあり、休日は12時台に「親子での遊び」「その他」のピークがある。</p> <p>意向調査のまとめ</p> <p>街区公園の滞在時間は15分以内が多く、近隣公園は1～2時間程度が多い。半数以上が週2～3回利用する。来園手段は「徒歩」が6割で、近隣公園では1割以上が「自家用車」を利用している。所要時間は「5分以内」が4割以上で、公園の選択理由としては「家に近いから」が多い。</p> <p>利用実態調査のまとめ</p> <p>身近な公園は、性別・年齢層別に特に隔たりがなく幅広い階層に利用されている。</p> <p>身近な公園の1日の利用形態は一定の基本的なパターンが存在する。「朝：健康運動・犬の散歩」「午前～午後：親子での遊び」「午後：友達との遊び」「夕方：犬の散歩」。季節及び平日・休日によって時間帯・強弱の変化があるものの、地区を問わない基本的なパターンとして確認された。</p> <p>身近な公園は目的・状況により利用者を選択され使い分けられている。調査した街区公園では、近隣公園との距離や複合遊具・トイレの有無等により選別され利用者が増減する傾向が見られた。</p> <p>身近な公園の利用者数の季節変化を見ると、夏季に利用者数・利用形態とも最も大きく変化する(利用者数の減少・利用パターン時間帯による変化がもっとも大きくなる)(但し、調査対象都市の降雪のある都市を含んでおらずこれらの都市には冬季の利用が大きく異なることが予想される。)</p> <p>身近な公園で最も多い利用は「通過」であるが、公園滞在時間の考慮した「公園占有量」では「親子での遊び」が最も多く、こうした利用の多寡が「公園の利用感」に結びついていると推察される。</p> <p>身近な公園における「球技・競技」利用は他の利用と競合し排他的になる傾向にある。</p> <p>小学校区を基礎単位とした身近な公園の推定利用者(通過を除く)をみると、小学校区全体の10人に1人が身近な公園を利用している。また小学生以下では5人に1人が利用している。</p>
課題	
調査結果の反映等	平成14年度調査の で調査結果の総合分析を実施

調査項目 利用実態観察調査及び利用者総合分析調査

調査年次 平成13年度(4次調査) 章番号〔 - 〕

キーワード

利用実態、意向調査、季節変化、利用者数、利用内容、利用形態、滞在時間、利用時間

事例公園等

札幌市 ゆたか公園、二十四軒さいわい公園、二十四軒すずらん公園、二十四軒公園

仙台市 すぐとや西公園、西勝山公園、川平四丁目公園、川平北公園

千葉市 千城台南第4公園、千城台東第2公園、千城台南公園、千城台公園

東京都北区 十条仲原4丁目児童遊園、稲付公園、清水坂公園

東京都世田谷区 船橋本村公園、希望丘東公園、葎根公園、希望丘公園

川崎市 末長姿見台公園、末長けやき公園、梶ヶ谷台3公園、梶ヶ谷第1公園

横浜市 共進第一公園、東蒔田公園、睦町公園、蒔田公園

名古屋市 観音公園、四条公園、道德公園

京都市 東幡枝公園、岩倉池田公園、南四ノ坪公園、岩倉南公園

大阪市 大淀中5公園、大淀南公園、上福島北公園、浦江公園

神戸市 魚崎中町小公園、魚崎中町公園、校北公園、川井公園

広島市 南千田西町公園、千田第一公園、南千田公園、千田公園

北九州市 引野公園、神ノ木公園、道永公園、別所公園

福岡市 小田部1号幼児公園、室町南公園、小田部西公園、小田部中央公園

H13_ - スポーツ系高齢者団体への行動意識調査

調査項目 スポーツ系高齢者団体への行動意識調査

調査年次 平成13年度(4次調査) 章番号〔 - 〕

目的

スポーツ系高齢者団体の活動状況と公園利用の状況・意向調査、及びスポーツ系活動に参加している高齢者の行動空間の把握と公園利用の状況・意向調査を行う。

概要

調査対象都市(札幌市・仙台市・川崎市・横浜市・京都市・神戸市・広島市・北九州市)のスポーツ活動高齢者の実態調査を行い、その結果と平成12年度の文化系高齢者調査との比較を行った。

結果

スポーツ等団体代表者への調査まとめ

- ・スポーツ活動で公園を利用するときに困ることについては、「休憩できる屋根のある場所がない」、「トイレや手洗い場等がない」の順。
- ・スポーツ以外の公園利用は「清掃活動」、「盆踊りなどの地域の祭等イベント」の順。

スポーツ等活動の参加者への調査のまとめ

- ・公園利用頻度は「週に数回行く」が多い。公園までの交通手段は「徒歩」が65%、団体でのスポーツ活動に利用している公園では「自動車」の比率が大きい。
- ・家から公園までの所要時間は「5分以内」と「5～15分」で8割を占める。公園での滞在時間は「2時間以上」26.9%、「1～2時間」18%と長い。
- ・公園ですることは、「ゲートボール・グラウンドゴルフ」(55.8%)、「散歩」(40.8%)、「草木の管理・清掃活動」(21.7%)でスポーツ活動後に清掃するという回答も多い。
- ・公園を選んだ理由は「家から近いから」、「スポーツ等ができるから」の順で、団体のスポーツ活動で利用している公園では「安全だから」、「友人・知人に会えるから」の比率が高い。
- ・公園の不満は、「特に不満はない」25.9%、「駐車場がない」、「ごみが散らかっている」の順。12年度調査と比較すると「トイレが汚い」、「日陰が少ない」が多い。
- ・近くにどのような公園があればよいかについては、「ゲートボールなどいつでもできる公園」50.0%、「集会所など仲間が集まることができる場所がある公園」、「草花や樹木などの緑豊かな公園」、「健康運動のための器具や施設がある公園」、「段差をなくすなど体が不自由な人にも使いやすい公園」の順。

結果のまとめ

- ・スポーツ等活動系高齢者が、高齢者施設利用の高齢者(平成12年度調査)より年齢層が高かったにも関わらず、より行動的な生活を送っていることが明らかになった。
- ・スポーツ等活動系高齢者がスポーツを通じて公園をよく利用しており、このことが清掃活動等の公園を舞台とした他の活動に結びついており、また公園への関心も高い(公園はこどもの施設といった意識ではないことを確認)。
- ・高齢者のための公園づくりでは、スポーツはもちろんそれ以外にも公園をつかってもらうきっかけづくりが重要である。

課題

調査結果の反映等

調査項目 スポーツ系高齢者団体への行動意識調査

調査年次 平成13年度(4次調査) 章番号〔 - 〕

キーワード

利用実態、身近公園、意向調査、高齢者、スポーツ団体

事例公園等

札幌市 〔西区〕二十四軒公園、二十四軒すずらん公園、二十四軒さいわい公園、ゆたか公園

仙台市 〔青葉区〕川平北公園、川平4丁目公園、西勝山公園、すぎとや西公園

川崎市 〔高津区〕梶ヶ谷第1公園、梶ヶ谷第3公園、末長けやき公園、末長姿見公園

横浜市 〔南区〕蒔田公園、東蒔田公園、共進第1公園、睦町公園

京都市 〔左京区〕岩倉南公園、岩倉池田公園、東幡枝公園、南四ノ坪公園

神戸市 〔東灘区〕川井公園、校北公園、魚崎中町公園、魚崎中町小公園

広島市 〔中区〕千田公園、千田第1公園、南千田西町公園、南千田公園

北九州市 〔八幡西区〕別所公園、道永公園、引野公園、神ノ木公園